

日本家族社会学会ニュースレター

No. 44 2010. 5. 31. 編集 畠中宗一

発行 日本家族社会学会事務局

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京人文社会系稲葉昭英研究室

電話：0426-77-2126 FAX. : 0426-77-2124

第20回大会のご案内

第20回大会実行委員長 石原邦雄

今年秋の学会大会を成城大学でお引き受けすることになりました。第20回となる記念すべき大会が十分な成果を上げられるよう、微力を尽くしたいと思います。ご支援のほど、よろしくお願い致します。

成城大学は、立地と施設の条件はまずまずではありますが、マンパワーが問題です。学内で学会員は私一人しかおりません。そうした条件であっても、準備作業を極力外部化する工夫や新しい情報システムを活用して、開催校や実行委員会の負担を軽減することによって、より多くの大学で開催が可能となるような方式を作っていくという、これもイノベーションを目指す一つのチャレンジであります。

初代会長の森岡清美先生にも、古巣での大会開催を特別講演で応援していただけることになりました。20回となる節目の大会にふさわしい企画の一つと思います。その他の意欲的な大会企画とあわせて、多くの発表と熱心な討論によって、成城大学での大会を、大いに盛り上げていただきたいと思います。

事務手続きについては、すでに始まっている発表申し込み、7月から本格化する大会参加申し込みと参加費等の事前入金などにおいて、従来と異なる方式が導入されることとなりますので、新しく開設された「大会ホームページ」(URL:<http://www.wdc-jp.biz/jsfs/conf2010/index.html>)、7月発行予定の「大会ニュース No.2」などをご覧頂き、お間違いのないよう、よろしくお願い致します。

大会実行委員会は、大友由紀子(十文字学園女子大学)、永井暁子(日本女子大学)、田中慶子(家計経済研究所)、中西泰子(相模女子大学)の皆さんとともに立ち上げ、研究活動委員会との連携の下で準備に取り組んでいます。新しい方式での大会運営では、準備段階を含め、何かとご不便をお掛けする点も出てくるかと思いますが、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 日程： 2010年9月11(土)・12(日)

2. 会場： 成城大学 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

小田急線 成城学園前駅下車、徒歩3分

3. 会場へのアクセス：

○東京駅から小田急線成城学園前駅まで所要時間 35～40分 (400円程度)

東京 (JR中央線快速) →新宿 (小田急線急行) →成城学園前駅

○羽田空港から小田急線成城学園前駅まで所要時間 70～75分 (800円程度)

羽田空港（京浜急行）→品川（JR山手線）→新宿（小田急線急行）→成城学園前駅
 ※交通機関の利用については、「大会ホームページ」および「大会ニュース No2」で
 詳細情報をお知らせします。

4. 昼食：

周辺の各種レストラン・飲食店、コンビニ等も利用できますが、弁当の予約も参加費とともに受け付けることにします。

5. 参加費等：

	大会参加費			懇親会			弁当(予約制)	
	事前納付		当日払い	事前納付		当日払い	事前納付のみ	
	振込み	カード		振込み	カード		振込み	カード
一般	3,500	3,690	4,500	3,500	3,690	4,000	1,000	1,060
学生	2,500	2,640	3,000	2,500	2,640	3,000	1,000	1,060

今回から採用される、参加申し込みや、クレジットカードも可能になる事前払い込みの方法などについては、「大会ホームページ」および7月発行予定の「大会ニュース No2」で改めて詳しく説明します。

6. 宿泊：

東京での開催ですので、従来通り宿泊についての便宜提供は致しません。各自で手配してください。

7. 発表者の AV 機器使用および資料配付：

各室で Power Point 2007(OS: Windows Vista)が使用可能です。発表のための配付資料は、発表者の責任で指定部数をご用意いたします。

8. 託児サービス：

大会期間中、成城大学内に託児室を設置いたします。詳細は近日中に決定いたしますので、ご関心ある方は
 担当：永井暁子・日本女子大学) までご一報ください。

9. 大会に関するお問い合わせ：

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学社会イノベーション学部

石原邦雄研究室内 日本家族社会学会 第 20 回大会実行委員会

e-mail：

Webでの大会報告申し込み、参加登録、事前納付などについてのお問い合わせは以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いします。

jsfs-desk FAX：03-3368-2869

家族社会学会設立 20 周年記念大会にあたって

日本家族社会学会会長 牧野カツコ

今年には日本家族社会学第 20 回大会という記念大会です。日本家族社会学会第 1 回大会は 1991 年 7 月 21 日から 23 日まで伊豆長岡富士見荘で開催されました。しかし、家族社会学会は 20 年前に突然設立したのではなく、20 年以上続いた合宿形式の家族社会学セミナーの時代から、徐々に準備を進めて学会組織にスライドされてきたのです。学会誌の『家族社会学研究』は 1989 年に創刊され、2010 年の今年はずでに 22 巻を数えています。学会の設立より一足早く刊行されています。

第 1 回伊豆長岡の大会は 2 泊 3 日全員が合宿をする形式で、第 24 回家族社会学セミナーでもありました。この大会で会則、理事・会長の選挙規定などが承認され、第 2 回大会(北海道大学)で初代会長に森岡清美氏が

推挙されました。第3回大会(第26回家族社会学セミナー)は1993年小田原市で、やはり2泊3日で開催されました。第4回大会以降合宿形式はなくなり、カッコ書きのセミナーの回数は外れて2日間の学会大会となります。

家族社会学セミナーの成立については、学会誌の創刊号に森岡先生が巻頭エッセイを書いておられます。第9回国際家族研究セミナー(1965年)の日本での開催を機に、家族社会学者の連絡機関として、比較的小規模の専門家による合宿形式の情報交換と討議の場として発足しました。その後年月を重ねるうちに参加者は増えましたが老若男女研究者が2泊3日同じ場所に泊まり込んで朝から晩まで対等に議論をする形式はずっと続いてきました。

学会組織となり20年が経過して、研究者同士の情報交換は、IT技術の飛躍的な発展から研究環境が大きく変化しました。私が会長になりまして以降、学会としては、ホームページの充実、メールマガジンの導入、学会誌の電子ジャーナル化などに力を入れて、会員の皆様の情報交換の便宜を図ってまいりました。今年からマイページの導入を行い、学会大会の運営を効率化して、大会の参加と研究発表がしやすくなることを考えました。

研究環境は変化していますが、研究者同士が直接顔を合わせて交流するオフラインのコミュニケーションの意義はむしろ増えています。セミナー設立時の理念である、国際的な家族研究に対応するための国内研究者の連帯、国内の研究成果の批判的レビュー、研究者同士の活発な討論は、今日一層その意味を強くしていると思います。

家族社会学大会が、個人のばらばらな研究の発表の場として終わることなく、世代を超えた研究交流の場として、ますます発展していくことを期待したいと思います。

第20回日本家族社会学学会大会について

研究活動委員長 宮本みち子

今年の大会は、日本家族社会学学会の設立20周年に当たりますので、記念大会にふさわしい企画を準備しています。4月10日付で会員の皆様には第20回日本家族社会学学会大会ニュースNo.1をお届けしました通り、発表の募集を開始しました。テーマセッション・国際セッション・書評ラウンジ等の申込みは4月末日で締め切りました。自由報告の申込みは5月末日です。いずれも要旨原稿の締め切りは5月末日です。今回から、発表申込みはWEB上で行うことになりました。学会のホームページ<http://www.wdc-jp.com/jsfs/>にあるマイページからログインして申し込んでください。

《大会シンポジウムについて》

家族社会学学会が企画した「全国家族調査」を中心として、家族社会学者が参照することの多い国立社会保障・人口問題研究所による家族の動向にかかわる調査、ならびに公開データとして広く活用されている「日本版総合的社会調査(JGSS)」から得た知見をもとに、日本の家族の変化・現状・今後について報告していただきます。

《学会化20周年記念テーマセッションについて》

日本家族社会学学会設立20周年を記念して、昨年と今年の2年間に跨って、編集委員会と研究活動委員会の共同企画により学会化20周年記念事業を企画していますが、2年目の今年は、2009年に引き続き「学会化20周年記念テーマセッション：日本の家族社会学は今一過去20年の回顧」を開催します。今回は、研究方法論を中心として振り返ります。

シンポジウム、テーマセッション共に活発な討論が展開することを期待していますので、ふるってご参加ください。

《初代会長・顧問 森岡清美会員の特別講演について》

家族社会学会の創設に尽力された初代会長の森岡清美先生が 20 周年を記念して、特別講演「私が出会った家族研究の 4 先達—鈴木、有賀、小山、喜多野の諸先生—」をしてくださいます。日本の家族社会学の基礎を築かれた鈴木栄太郎、有賀喜左衛門、小山隆、喜多野清一先生方について、直接薫陶を受けられた森岡先生からお話を伺えることは誠に貴重な機会です。多くの方々をお誘いの上、ご参加ください。

大会参加・大会報告申し込みの新しいシステムの導入について（重要）

事務局長 稲葉昭英

本学会のかかえる大きな課題の一つに、大会実行委員会の大きな負担があげられます。理事会では毎回、大会を引き受けてくださる学校探しに苦慮せざるを得ず、今回大会をお引き受けいただいた成城大学には相当な無理をお願いしました。また、大会報告の申し込みや要旨集の作成に責任をもつ研究活動委員会では、名簿との照合など個人情報の管理の問題を抱えていました。

こうした状況の改善が理事会で検討され、今年度の大会より、従来大会実行委員会および研究活動委員会が担当していた大会関連業務を日本家族社会学会事務センター（国際文献印刷）に委託することを決定いたしました。本年度が最初の年になるため、試行錯誤的な部分がありますが、目標は、1 名の大会実行委員長と、複数名の学生アルバイトで大会の運営を可能にすることです。これに伴い、従来の大会報告申し込みや大会参加の申し込みの方法が変わります。具体的な変更は以下の通りです。

1 大会参加申し込み

これまでは、郵便振替用紙が大会ニュース 2 号とともに会員のもとに送付され、その入金をもって会員の事前参加申し込みの処理がおこなわれてきました。今後は、**入金にくわえて、「大会参加申し込み」の手続きが必要になります。**大会参加申し込みは学会ホームページからリンクがはられている大会ホームページから行うことができます。なお、インターネットを利用できない場合には、ファックスや郵送での大会参加申し込みも受け付けます。

以上の申し込みシステムは 7 月以降に稼働させる予定です。ファックス等での参加申し込みも、大会ニュース第 2 号にて案内をいたします。稼働時期がきたら、メルマガなどで周知を図る予定です。

大会参加申し込みには、学会より会員各位に発給された ID（数字 8 ケタ）とパスワードが必要です。ID は学会からの発送物のタックシールなどにも数字 8 ケタで示されているほか、会員名簿中に記載されている数字を下 4 けたとし、上 4 ケタを 0000 としたものです。パスワードを紛失した場合、学会ホームページより問い合わせができますので、ご利用下さい。

大会参加申し込みは、大会への参加を確実に把握するために、日本家族社会学会事務センターからの強い要請で導入いたします。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

2 大会参加費などの事前納付について

これまでと同様に、大会参加費、懇親会費、お弁当代などの費用を事前に納付することができます。大会当日の受付を速やかにするためにも、事前納付をお願いいたします。事前納付は、従来の郵便振替と、カードを用いたオンライン決済の 2 つで可能です。

郵便振替用紙は大会ニュース 2 号に同封する予定です。締め切りは 8 月 20 日もしくは末日に設定する予定

です(今後広報します)。クレジットカードによるオンライン決済は、今回より導入いたします。大会ホームページより、利用することができるようにする予定です(7月以降の稼働を予定)。カードでの決済はカード会社に5%の手数料が徴収されるため、この料金を上乗せした金額となります。郵便振替の場合も、振替手数料は本人負担ですので、この点は了解をお願いいたします。

3 大会報告申し込みについて

大会報告の申し込みには従来もWebによるシステムを用いてまいりましたが、セキュリティなどの面で問題があったため、今回大幅にシステムを変更することとなりました。大会報告の申し込みは、すでに大会ホームページで受け付けています。報告申し込みは報告要旨のファイルの提出と同時で、5月末日が締切です。大会ホームページからの申し込みにはIDとパスワードが必要です。また、**大会報告申し込みをしても、大会参加申し込みは別に必要となります**のでご注意ください。

報告要旨の書式などは大会ホームページの「大会報告申し込み」で示されていますので、参照ください。インターネットを利用できない環境にある会員は、研究活動委員会(宮本みち子委員長、〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11 放送大学教養学部、043-298-4143)までお問い合わせください。

4 お問い合わせについて

大会参加申し込み、大会報告申し込み、参加費などの事前納付の方法などに関するご質問は、日本家族社会学会大会ヘルプデスク[](FAX 03-3368-2869)までお願いします。

大会実行委員会は当日の受付や大会運営を行います。これら事前の業務にはいっさいかわりありません。大会のプログラムや内容に関するお問い合わせは、研究活動委員会(宮本委員長)までお願いいたします。

第7期理事選挙のご案内

事務局長 稲葉昭英

本年度は、3年に1度の理事選挙の年です。選挙に関してはこれまでと同じ、会員による郵送投票にて行います。

本学会では理事選挙規定により、前年度(2009年度)までの会費を完納している方に選挙権があります。また、新年度から入会された方には選挙権はありません。先に会員の皆様あてに有権者名簿をお送りしましたが、名簿に掲載されている方はこの条件を満たした方です。ご確認をお願いします。

被選挙権については、通算3期理事をつとめたものには被選挙権がないほか、学会理事会が定めた特定の理事にも選挙権がありません。後者は、学会理事会の継続性を考えた措置です。選挙区は東日本(1区)と西日本(2区)に分かれており、理事の定数はそれぞれ8名、7名となっています。理事会はこうした選挙で選出される理事のほか、理事会が推薦する委嘱理事(若干名)が構成員となります。選挙区は有権者の4月30日時点の所属機関(所属機関のないものは、居住地)で定められます。

有権者名簿の確認後、異議申し立て期間を経て投票が行われます(投票用紙は郵送されます)。投票は3名連記の無記名投票です。得票数の多かった会員が次期理事となります。

理事選挙後、会長選挙が行われます。新会長候補者は新理事の投票によって選出されます(理事の互選ではないので、理事以外の会員が選出されることもあります)。会長候補者は総会での承認をもって新会長に就任し、総会后に新理事会(第7期)が発足します。

これまで本学会の投票率は高い時でも20%程度でした。投票率は会員の学会への関心の高さを示す指標でもあります。会員各位におかれましては、理事選挙に必ず投票をお願いいたします。

会費減額申請について

事務局長 稲葉昭英

本年度より、常勤職にない会員の会費減額申請が始まっています。すでに 30 名あまりの会員が会費減額を申請し、承認されています。減額申請が承認されると、年会費が学生会員と同額になるほか、大会参加費・懇親会費も学生会員と同額扱いになります。

なお、現在学生会員の方は、学生の身分がなくなる年度より申請してください（学生会員の間は、申請の必要はありません）。会費減額申請は毎年申請が必要となりますが、高齢の会員については、一度申請が承認されればその後も自動的に会費減額が継続されます。

詳細は日本家族社会学会ホームページをご覧ください（申請用紙もダウンロードできます）。インターネットが利用できない環境にある会員の方は、学会事務局まで直接お問い合わせください。

理事会幹事会・理事会報告

2009 年 12 月 理事会幹事会 議事録(抄) (略)

第3回(第6期第9回)理事会議事録(抄) (略)

第19回大会決算報告(略)

各種委員会報告

編集委員会

4 月末日付けで機関誌 22-1 号を発行し、第 6 期編集委員会の責任編集分も残すところ 1 冊となりました。専門委員や寄稿して下さった多くの方々のご尽力やご協力に、心より感謝もうしあげる次第です。

さて、最近の編集委員会の取り組み等について、いくつか述べさせていただきます。

1. 執筆要項の改訂

現行の執筆要項は歴代の編集委員会が幾度となく見直し、改訂をくわえてきたものです。しかし、今期編集委員会が改めて見直しの作業をおこなった結果、文献引用や文献リストの形式などにいくつかの不具合があると感じました。また、情報環境の変化のなかで、インターネット情報や電子ジャーナルを参考文献・参考資料として用いる例も増えてきています。これらのことを踏まえ、編集委員会では現在、執筆要項の改訂作業に取り組んでいます。22-2 号（2010 年 10 月末日発行予定）にはその改訂版を掲載する予定です。また、それよりも早く、本年 7 月中には、学会ホームページにも執筆要項改訂版を掲載する予定です。更新時期につきましては学会メールマガジンでお知らせいたしますが、8 月末締め切りの 23-1 号に投稿を予定されている方は、ぜひ学会ホームページにアップされる執筆要項改訂版をご参照のうえ、原稿形式の確認をしていただきますようお願いいたします。

2. 学会化 20 周年記念テーマセッション

今年は、家族社会学会が設立されて 20 周年の節目の年に当たります。このことを記念して、編集委員会では、研究活動委員会とも連携して、過去 20 年の日本の家族社会学の研究を振り返りつつ総括するという趣旨のテーマセッションを、2009 年、2010 年の 2 年連続で企画いたしました。昨年は研究テーマや理論の動向に焦点化したセッションをもちましたが、2010 年大会では研究方法論に関するセッションを予定しています。多くのみなさまのご参加と活発な議論を期待しております。

3. 会員アンケートの結果に関する所感

第3回活動点検会員アンケートでは、本誌の内容構成や査読のあり方について、たいへん貴重なご意見をいただきました。一つひとつのご意見を十分にくみ取って検討し、今後の編集方針に活かしてまいりたいと考えています。ただし、1点、気になる点がありましたので、この場をお借りして編集委員会の見解を述べさせていただきます。

本誌の内容構成について、「掲載される投稿論文数が少なすぎる」「特集などの企画ものよりも投稿論文を最優先で掲載すべき」などのご意見が複数の方から寄せられました。確かに、今期編集委員会の担当号では、自由投稿論文の掲載は各号1-3本程度と少なく、このことは編集委員会としてもたいへん残念に思っているところです。投稿論文数は毎号10-15本程度コンスタントにあるにもかかわらず、2回の査読を経て「掲載可」と判断される論文がきわめて限られているというのが実情です。本誌の専門委員のみなさまによる査読は、たんに絶対規準により掲載の可否につき「審査」をするだけにとどまらず、投稿論文の改善のための具体的な提案、つまり「教育的指導」の要素を多く含んでいると感じます。また、編集委員会の立場でも、投稿論文と査読結果を突き合わせて査読の妥当性について検討するとともに、執筆要項に照らして形式上の問題を細かくチェックし、その都度修正を求めてきました。にもかかわらず、これに十分応えられない投稿者も散見されます。この問題を解決するためには、何よりも最初の投稿段階において、形式面・内容面ともに細心の注意を払って仕上げた論文をお送りいただくことが肝要かと思えます。

査読は、投稿者と専門委員、そして一歩引いたかたちで編集委員会もコミットしつづなされる、たいへん水準の高いアカデミックなコミュニケーションの過程です。ぜひ、投稿前に投稿規定や執筆要項を熟読してこのルールに則り、また内容面・形式面ともに自己チェックを十分におこなったうえで投稿して下さるようお願いしたいと思います。

(藤崎宏子・お茶の水女子大学)

研究活動委員会

1. 学会賞について（経過報告）

今年は3年に一度の学会賞(奨励論文賞)選考の年です。すでに総会・理事会での審議・決定事項としてニューズレターなどでお知らせしてきましたように、今回から「家族社会学研究」誌以外の学術雑誌に掲載された論文も、自薦・他薦により選考対象になります。現在、学会誌から13本、推薦2本の論文を対象に、選考委員会で審査しています。結果は9月の学会時に発表します。

2. 社会学文献情報データベースへの郵送による登録について

近年は、Web登録する会員が多くなっていますが、それが不可能な場合は郵送で申請できるように、申請用紙を同封いたしました。用紙には1件しか記入できませんので、必要に応じて複写してお使いください。記入済みの用紙は下記宛に郵送してください。なお、申請に関しては日本家族社会学会ホームページにも掲載してあります。<http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/080125.html>

郵送による提出先：日本社会学会データベース委員会

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会学研究室内

(宮本みち子・放送大学)

庶務委員会

会員アンケート調査について

会員の皆さまのご協力により、「家族社会学会第3回活動点検会員アンケート調査」が終了いたしました。会員総数735名、有効回答93票（うち郵送回答3票）、回収率12.7%でした。今回より、マイページ経由での

Web 調査となりましたが、マイページ導入直後のためか、前回より低い回収率となりました。

詳しい調査結果は3月の理事会で報告され、現在、委員会ごとに、結果のご意見を今後の活動にどう生かすのかを検討しております。調査の単純集計結果を以下に掲載いたします。また、表形式のデータを含むより詳しい結果については、学会 HP に掲載予定です。今回の調査について、ご意見やご質問がありましたら、事務局までお寄せ下さい。

第3回活動点検会員アンケート調査（単純集計結果）

◆調査時期 2009年12月3日～2010年1月31日

◆調査方法 マイページを経由したWeb 調査（郵送法を併用）

◆有効回収数 93（有効回収率 12.7%）

①パーセンテージのみを表示しています（注記のない限り、N=93）。

②複数回答の設問は、選択された回答のパーセンテージを表示。

③自由記述の回答は掲載しませんが、各委員会でご意見を参照させていただいています。

◆【回答者の属性】

問1【年齢】29歳以下 9.7%，30～34歳 8.6%，35～39歳 18.3%，40～44歳 18.3%，45～49歳 11.8%，50～54歳 11.8%，55～59歳 10.8%，60～64歳 7.5%，65～69歳 2.2%，70歳以上 1.1%

問2【会員区分】一般会員 78.5%，学生会員 21.5%

問3【会員歴】入会后3年未満 19.4%，入会后3～5年未満 14.0%，入会后5～10年未満 22.6%，入会后10～19年未満 22.6%，家族社会学セミナー以来の会員（19年以上） 21.5%

問4【役員歴（複数回答）】会長・顧問、理事、会計監事のいずれかを経験した 15.1%，複数年にわたる（専門）委員を経験した（編集委員・査読委員、研活委員、事務局等での委嘱委員） 23.7%，単年度の委員を経験した（大会実行委員、臨時査読委員など） 20.4%，役員の経験はない 59.1%

◆【学会活動】

問5【大会参加頻度】ほぼ毎年参加している 49.5%，2・3年に1度位参加している 25.8%，以前はよく参加したが、近年は参加していない 8.6%，あまり参加していない 9.7%，参加していない 6.5%

問6【2009年大会で良かった企画（複数回答。「当てはまる」とした割合）】書評ラウンジ：『現代日本人の家族』と全国家族調査 16.1%，学会化20周年記念編集・研活テーマセッション2009：日本の家族社会学は今一過去20年の回顧 33.3%，国際セッション：アジアのライフコースと社会変動 7.5%，ラウンドテーブル：国際比較調査をどう読み解くかー家庭教育6カ国比較調査を行って 14.0%，テーマセッション：夫婦・親子の交差する視線ー「現代核家族調査」にみる家族の現在 14.0%，シンポジウム：高齢期の新しいつながりの模索 14.0%，テーマセッション：現代の日本における結婚活動（婚活） 20.4%

問7 問6でお開きした企画に関連して改善・工夫が必要と思われる点があれば自由に書いてください。

問8【大会時シンポジウムの改善すべき点】特になし 85.0%，ある 15.1%

問9【2009年大会の部会時間編成】今年のような形でよい 40.9%，並行する部会の数が増えても、シンポジウムとテーマセッションは並行させない方がよい 43.0%，その他 16.1%

問10【大会要旨のネット掲載移行】ネットへの掲載だけでよい 39.8%，当分は、印刷された要旨集とネットへの掲載と併用すべきだ 59.1%，印刷された要旨集を継続すべきだ 1.1%

◆【機関誌（『家族社会学研究』）について】

問11【『家族社会学研究』を読む頻度】よく読む 19.4%，関心のある部分だけ読む 79.6%，あまり読まない 1.1%

問12【『家族社会学研究』の学術的水準】大変高い 15.1%，まあ高い 62.4%，あまり高くない 20.4%，高くない 2.2%

問13【『家族社会学研究』の発行回数】1回で十分 6.5%，現行のままで良い 91.4%，少ない 2.2%

問14【『家族社会学研究』への自由投稿経験】ある 34.4%，ない 65.6%

問15【『家族社会学研究』への掲載経験】ある 36.6%，ない 63.4%

問16 投稿論文の査読制度についてのご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

問17 『家族社会学研究』で取り上げて欲しいテーマがありましたら、自由にお書きください。できれば執筆適任者もあわせて下さい。

問18【『家族社会学研究』の電子ジャーナル化】大変よかった 65.6%，どちらかといえばよかった 20.4%，あまりよくなかった 2.2%，知らなかった 11.8%

◆【全国家族調査（NFRJ）について】

問21a【NFRJ98の認知度】内容について知っている 66.7%，名前だけ知っている 30.1%，ほとんど知らない 3.2%

- 問21b [NFRJS01の認知度] 内容について知っている 45.2%, 名前だけ知っている 41.9%, ほとんど知らない 12.9%
- 問21c [NFRJ03の認知度] 内容について知っている 59.1%, 名前だけ知っている 35.5%, ほとんど知らない 5.4%
- 問21d [NFRJ08の認知度] 内容について知っている 50.5%, 名前だけ知っている 44.1%, ほとんど知らない 5.4%
- 問21e [NFRJ08 パネル調査の認知度] 内容について知っている 40.9%, 名前だけ知っている 46.2%, ほとんど知らない 12.9%
- 問22a [NFRJの評価:データの質] 非常によい 20.4%, よい 57.0%, よくない 2.2%, わからない 20.4%
- 問22b [NFRJの評価:データの一般公開] 非常によい 66.7%, よい 23.7%, わからない 9.7%
- 問22c [NFRJの評価:データ公開までの期間の長さ] 非常によい 16.1%, よい 47.3%, よくない 1.1%, わからない 20.4%
- 問22d [NFRJの評価:HPを通じての情報公開] 非常によい 38.7%, よい 49.5%, よくない 2.2%, 非常によくない 2.2%, わからない 7.5%
- 問22e [NFRJの評価:調査項目の学会内での公募] 非常によい 35.5%, よい 46.2%, よくない 1.1%, わからない 17.2%
- 問22f [NFRJの評価:実行委員の人選] 非常によい 16.1%, よい 38.7%, よくない 2.2%, わからない 43.0%
- 問22g [NFRJの評価:学会員からの意見聴取] 非常によい 19.4%, よい 48.4%, よくない 4.3%, わからない 28.0%
- 問22h [NFRJの評価:『家族社会学研究』でのNFRJレポート] 非常によい 25.8%, よい 48.4%, よくない 3.2%, わからない 22.6%
- 問22i [NFRJの評価:大会でのテーマセッション] 非常によい 23.7%, よい 49.5%, よくない 3.2%, わからない 23.7%
- 問22j [NFRJの評価:成果の刊行] 非常によい 38.7%, よい 46.2%, よくない 2.2%, わからない 12.9%
- 問22k [NFRJの評価:とりくみ全般] 非常によい 26.9%, よい 50.5%, わからない 22.6%
- 問23 [学会主体の公共利用データの作成] 今後とも必要 79.6%, どちらともいえない 11.8%, わからない 8.6%

◆【学会ニュースについて】

- 問25 [ニュースレターを読む程度] よく読む 35.5%, 関心のある部分だけ読む 54.8%, あまり読まない 8.6%, 読まない 1.1%
- 問26 [ニュースレターの内容] 大変よい 20.4%, まあよい 78.5%, あまりよくない 1.1%
- 問27 [ニュースレターの改善すべき点] 特になし 94.6%, ある 5.4%

◆【学会ホームページについて】

- 問28 [学会HPを見た経験] 見たことがない 12.9%, 見たことがある 87.1%
- 問29 [HPから情報入手したことのある項目(複数回答)] 入会案内 39.8%, 大会情報 94.6%, 投稿規定 53.8%, 過去のニュースレター 35.5%, 人事公募 32.3%, 助成金の案内 19.4%, 講演会・研究会の案内 49.5%, NFRJの情報 48.4%
- 問30 [HPへの要望] 特になし 93.6%, ある 6.5%

◆【学会メールマガジンについて】

- 問31 [電子メールの利用] 利用している 95.7%, 利用していない 4.3%
- 問32 [メールマガジン配信の認知] 知っている 98.9%, 知らない 1.1%
- 問33 [学会事務センターへのメールアドレス登録] 登録している 100.0%
- 問33-2 [メルマガの受信] 受信している 93.5%, メールアドレスを登録しているが、届いていない 3.2%, DK・NA 3.2%
- 問33-3 [メルマガに目を通した経験(N=87)] ある 96.6%, ない 2.3%, DK・NA 1.1%
- 問34 [メルマガで配信を希望する項目(複数回答)] 教員公募 61.3%, 講演会の案内 90.3%, 研究会の案内 94.6%, 助成金の案内 68.8%, 大会の案内 89.3%, その他 6.5%

◆【会員の個人情報について】

- 問35 [会員名簿の必要性] 必要 85.0%, 不要 15.1%
- 問36 [新入会員紹介欄の必要性] 必要 80.7%, 不要 19.4%

◆【役員選挙について】

- 問37 [理事選挙の投票] 必ず投票している 18.3%, 投票することが多い 28.0%, 投票しないことが多い 26.9%, 一度も投票したことがない 26.9%
- 問38 [理事に関する意見(複数回答。「当てはまる」とした割合)] 理事がどのような仕事をしているか、会員にはわかりにくい 38.7%, 理事にはもっと若い人がなるのがよい 19.4%, 理事にはなるべく年配の人がなるのがよい 4.3%, 同じ人が10年以上理事をするのは望ましくない 53.8%, 10年以上理事を務める人がいるのはよ

いことだ 4.3%, 自分の選挙区だけでなく、他の選挙区の人にも投票できるほうがよい 29.0%, 会長は理事だけの投票によるのではなく、一般会員全員が投票するのがよい 10.8%, 理事選挙にはほとんど関心がない 20.4%
(田淵六郎・上智大学)

全国家族調査 (NFRJ) 委員会

1 「第3回全国家族調査 (NFRJ08)」データの学会内共同利用を開始しました

NFRJ08 は、4月1日より学会内共同利用を開始しました。すでにご案内しましたように、利用にあたっては、実行委員会内に発足しましたNFRJ08 研究会 (代表: 稲葉昭英会員) に参加いただくことが必要です。本研究会は、NFRJ08 第二次報告書の作成を目標とし、NFRJ08 データがSSJ データアーカイブから一般公開されるまで存続する予定です。研究会の活動は、科研費ならびにトヨタ財団助成金を得て進めています。現在までのところ42名の参加があり、テーマに応じて4グループ (1. ワークライフバランス/女性のライフコース (11人) 世話人: 田中重人会員、2. 世代間援助関係・介護 (8人) 世話人: 田淵六郎会員、3. 出生行動・育児・情緒構造 (12人) 世話人: 福田亘孝会員、4. 階層・ネットワーク (11人) 世話人: 稲葉昭英会員) にわかれて活動しています。2010年度の研究会開催予定は、7月もしくは8月と12月です。研究会への参加をご希望の方は、NFRJのHP (<http://www.wdc-jp.com/jsfs/committee/contents/index.htm>) でご確認ください。

2 「全国家族調査パネルスタディ (NFRJ-08Panel)」Wave2を実施しました

NFRJでは科研費の交付を受けて、NFRJ08を起点とする「全国家族調査パネルスタディ (NFRJ-08Panel)」を実施しています。2010年1月には1,879名を対象としたWave2を実施しました。大規模追跡調査は2013年実施を予定していますが、毎年小規模な追跡調査を実施する予定です。

本調査実施と並行して、調査の実施主体であるNFRJ-08パネル実行委員会 (実行委員長: 西野理子会員) のもとに研究会を組織し、パネル調査に関する研究活動を進めています (現在の参加者は30名です)。関心のある方々の積極的な参加を募集しています。参加を希望される方は、NFRJのHPでご確認ください。

3 NFRJ データの利用について

NFRJでは、NFRJ98、NFRJS01、NFRJ03の3データを東京大学SSJデータアーカイブをとおして公開し、これまでに国外を含む多くの研究者にご活用いただいています。このたび、SSJDA Direct (データダウンロードシステム) での申請・利用ができるようになり、これまで以上に便利になりました (<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>)。引き続き積極的にご利用いただき、研究成果を学会の財産として蓄積し、還元していただければと願っています。なお、NFRJの最新情報につきましては、NFRJのHPをご覧ください。(嶋崎尚子: 早稲田大学)

事務局だより

1 本学会も所属している社会学系コンソーシアム (社会学系の学会の連合体) 関連の事項を報告いたします。2009年12月に、事業仕分けに対してコンソーシアム加盟学協会が共同で要望書を文部科学大臣・副大臣・政務官あてに提出いたしました。詳細は、以下のコンソーシアムのホームページからご覧ください。

<http://www.socconso.com/youbousyo0912.pdf>

また、2010年1月23日にシンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」が日本学術会議講堂において開催されました。本学会からは石井クンツ会員が報告を行いました。

2 今回から始まった大会報告申し込みや大会参加申し込みの新システムは、初年度ということもあり、うまくいくことは簡単ではないだろう、という妙な予感を持っています。改善すべき点は早急に対応しながら、次期事務局へと引き継ぎを行っていきたいと思います。

3 常勤職にない会員の会費減額申請も今年度より開始されました。これについてはご意見もいろいろあろう

かと思いますが、この導入によって学会財政が直ちに悪化するわけではありません。減額申請によって、これまで退会を選択していた高齢の会員の方が、会員資格を継続して下さるというメリットがあります。また、今回ふたを開けてみてわかったのですが、すでに学生の身分ではなくなっている会員の方がその申告をせず、学生会員状態を続けており、減額申請を期に正しく申告してきたというケースも多々見られました。その意味では、減額申請によって実態が反映されやすくなるのではないかと思います。

4 第20回大会は成城大学にお引き受けいただきました。本ニュースでの記事中にもあるように、今回大会よりこれまで大会実行委員会が担当してきた業務を学会事務センターに委託すると同時に、大会運営のスリム化もお願いしております。初年度であるがゆえに、会員各位にも、開催校にもいろいろとご面倒をおかけしそうですが、なにとぞ温かい目で見守っていただければと思います。 (稲葉昭英・首都大学東京)

会員異動

(略)

訃報

老川 寛先生 (明治学院大学名誉教授、本学会元理事) が2010年3月に79歳にてご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

NL44号をお届けします。第6期理事会の責任で出す最終号です。これで一つの役割が終了すると思うと、ほっとするものがあります。これまで原稿の提出で期限をお守り戴く等、ご協力戴きました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。次期理事会がよりよいNLの編集によって、本学会を盛り上げていかれることを祈念します。 (ニュースレター担当：島中宗一)